

国立精神・神経医療研究センター病院にて 入院中に反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）を受けた方へ

この度、国立精神・神経医療研究センター病院4北・5南・5北病棟でrTMS療法を受けた患者様の診療情報等の一部について、下記研究で使用します。本研究では、国が定めた倫理指針に基づき、対象となる方お一人ずつから直接同意を得るかわりに、利用目的等を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

この研究課題に対し診療情報等を利用することにより、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ございませんが、ご自身の診療情報等を利用・提供して欲しくない場合は、問い合わせ窓口までご連絡ください。なお、利用・提供して欲しくないことを申し出られても、なんら不利益を受けることはございません。

1. 対象となる方

2022年4月1日より2025年12月31日までの間に、4北・5南・北病棟でrTMS療法を受けたうつ病の患者様

2. 利用又は提供する試料・情報等と取得方法について

該当なし

3. 試料・情報を提供する研究課題名と研究代表者又は研究責任者

研究課題名：rTMSと心理社会的介入併用による抗うつ効果増強の検証：後方視的コホート研究

研究期間：研究実施許可受領後から2027年3月31日まで

研究代表者（研究責任者）：国立精神・神経医療研究センター病院 山元直道

（共同研究機関）：神戸大学大学院 研究責任者 石岡俊之

4. 利用又は提供する試料・情報等と取得方法について

試料：ありません

情報等：年齢、性別、発症年齢、診断名、入院日数、罹病期間、エピソード回数、服薬状況、作業療法や多職種プログラムなどの実施日や記録、うつ症状の評価

（取得方法）診療録から入手

5. 試料・情報の利用目的及び利用方法

本研究では、うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）と心理社会的介入（例：作業療法や認知行動療法など）を併用した場合に、治療効果がどのように変化するかを検討します。特に、rTMS治療

開始から3週間以内の早期段階で治療効果が見られるかどうかが、治療の継続に関わる重要な判断材料となることから、治療初期の効果を高める要因として心理社会的介入の役割を明らかにすることを目的としています。本研究の結果は、より効果的で継続的な治療の実現に貢献し、精神科におけるチーム医療の質の向上や医療資源の活用にもつながることが期待されます。

研究計画に従い、診療情報等の個人情報は加工処理を行った上で、対象となる方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱います。共同研究機関への試料・情報等の提供はありません。

6. 利用又は提供を開始する予定日

研究開始日を予定しています。

7. 問い合わせ窓口

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下記問い合わせ担当者までお問い合わせください。

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

所属 精神リハビリテーション部 氏名 山元 直道

電話番号 (042) 341-2711 e-mail:n.yamamoto※ncnp.go.jp（「※」を「@」に変更ください。）

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail:ml_rinrijimu※ncnp.go.jp（「※」を「@」に変更ください。）